

三角山とスキー場



三角山の東麓、中央はアルファジャンツェ、右奥に札幌ジャンツェ（昭和初期頃）
/「北海道のスキーと共に」1971年より

【ジャンツェとは】
ドイツ語でスキーのジャンプが行なわれる競技台のこと

大正時代～昭和にかけて三角山一帯はスキーのメッカとしてにぎわっていました。大正11年（1922年）に北大スキー部が三角山北側斜面に日本初の固定式ジャンプ台「シルバージャンツェ」を建設したのを皮切りに、大正13年（1924年）には、「アルファジャンツェ」、大正15年（1926年）には大型の「札幌ジャンツェ」も建設され、多くの大会で使用されました。

スキーを担いで寺口山へ



三角山の北側にあった寺口山スキー場（S30年代頃）/吉川氏提供 出典：地理院地図Vectorを一部加工

現代のようにリフトの無い時代、町民は寺口山（現在の山の山頂西側）までスキーを担いで向かいました。寺口山山頂は標高140m。山頂からは石狩湾と増毛の山々が眺められ、暗くなるまで滑ったそうです。帰り道はスキーを履いたまま家まで帰りました。寺口山のスキー場は、宅地化が進む昭和50年代ごろまでは市民のスキー場として利用されたようです。